

# 平成 29 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	中等 1	学校名	並木中等教育学校				課程	全日制		学校長名	中島 博司					
副校長名	大森 洪三		教頭名			菊地 智之			事務室長名		秋田 剛					
教職員数	教諭	60	養護教諭	2	常勤講師	3	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	1	計	79
生徒数	学科	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科		80	80	80	80	80	78	80	79	78	80	78	77	476	474

## 2 目指す学校像

<p>1 様々な体験を通して広く人間教育を行う学校</p> <p>2 筑波研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校</p> <p>3 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際教育・コミュニケーション能力育成教育を行う学校</p>
--

## 3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒が主体的に参加できる創意工夫ある授業の実践を図るために、平成 28 年度は、平成 27 年度の 1.5 倍となる 1040 回の「ミニ授業研究」を実施した。また、全教員が最低 1 回アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を公開することで授業のレベルアップを図ってきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「アクティブ・ラーニング」による思考の再構築</li> <li>・ I C T の効果的活用</li> <li>・ 観点別学習評価、指導と評価の一体化</li> </ul>
進路指導	進路情報の提供や面談を重視し、進路意識の高揚を図っている。その結果、4 クラスの卒業生のところ、国公立大学と国立大学校等の合格者数が 100 名 (現役 79 名) であり、私立大学の合格者数は延べ 314 名 (現役 290 名) に上った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験を重視した、6 年間を見通したキャリア教育の推進</li> <li>・ 生徒の早期の進路目標の設定及び援助指導の充実</li> </ul>
生徒指導	<p>生徒による週 1 回の頻度でのあいさつ運動、教師による毎日の交通安全指導を行うことにより、基本的な生活習慣 (自律的な生活習慣、社会的マナー) の育成や交通安全意識の啓発及び徹底を図ってきた。</p> <p>また、一人一人の悩みや不安に応じる教育相談体制の確立と定期相談の実施に努めてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的・自律的な生活態度の育成</li> <li>・ 日常生活の諸問題を生徒が自ら解決する取組の充実</li> <li>・ 子どもの声、親の声を真剣に受け止め、連携協力して問題を解決する体制づくり</li> </ul>
特別活動	生徒会活動、学校行事に積極的に参加する態度を育成している。部活動の加入率は平成 27 年度の 86.3% から平成 28 年度 87.6% と増加し、後期生になっても退部する生徒が少なくなってきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒主体の活動推進による、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成</li> <li>・ 6 年間の学校行事の体系化と精選</li> <li>・ 学校教育の一環として教育課程との連携を図る部活動運営の工夫改善</li> </ul>

#### 4 中期的目標

第2ステージに入った本校は、中等教育学校としての可能性をさらに追求する。第1ステージのテーマ「教育理念から実践へ」から、第2ステージは「より高い教育水準・より豊かな教育活動をめざして」とする。

<目 標>

- 1 建学の精神・教育理念をもとに、生徒に科学的素養や国際感覚、高い学力を身につけさせるとともに、「人間力」を備えた次世代を担うリーダーとして育成する。
- 2 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校として、本校の教育の柱の一つの科学教育を推進しつつ、グローバル化社会が求める新しい教育を追求し実践し、全国に誇れる県立中等教育学校を目指す。
- 3 キャリア教育の視点のもと、全ての教育活動を展開し、進学指導を一層充実させ、高い志の実現、海外の大学も視野に入れた生徒の進路実現を目指す。

#### 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 意欲ある学校風土の醸成	○新しい時代に必要となる資質・能力を育成する。 ・「アクティブ・ラーニング」の推進により論理力を育てる。 ・ICTの効果的活用を工夫し、生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育てる。 ・縦割り活動を通して、生徒の協働して学ぶ態度やリーダーシップを育てる。
2 志高く、進路実現に取り組む生徒の育成	○体験活動を充実し、6年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。
3 SSH事業第2期目の推進	○学校設定科目「理数探究」を中心としたカリキュラム開発を行う。 ○地域連携、高大連携による探究力・論理力の育成を図る。
4 6年間を見通した校内体制の確立	○6年間の教育活動の体系化を図り、内容を精選する。 ○カリキュラム・マネジメントを活用して校内体制を改善する。